デイトナ不動産 NEWS02

浜松ショールーム 鉄骨建て方、快調に進行中

ニッポンのバイクの聖地ともいえる浜松市に、デイトナハウスのショールームが建設中です。デイトナハウスSHIZUHAMA（静浜）の事務所兼ショールーム。来年３月のオープンを目指して現在、鉄骨の建て方が進行しています。

この建物では、吹き抜けのあるガレージを併設し、外壁は、グラスファイバーで強化された、断熱材一体成型のコンクリート板／GSパネルを採用します。今までにない外観の登場が楽しみですね。コンクリートの素材感とLGS鉄骨の艶消し黒の素材感が呼応し合って、ハードボイルドで愛着が持続する、ワンランク上の空間が実現することでしょう。

写真で空中に釣られているのは、オリジナルの分解式らせん階段『ダイナソーボーン（恐竜の背骨）』です。このように、まずはセンターボールに各段板を刺し通して吊り上げ、ボールの据え付けを行い、その後、ボールに記されたマーキングに従って各段を締めこんでいきます。ガラスウォール越しに、夜照らしあげた、このらせん階段が国道からの目印です。是非、一度お立ち寄りください。なお、この敷地内に、ガレージアパートメントGLBも建築予定。現在鉄骨製作中です。

ここに来れば住宅も、ガレージもアパートも店舗も、デイトナハウスのすべてが実感できる、デイトナハウス浜松ショールーム。オープニングイベントも年明け早々告知の予定です。今後も東海の新しいモーターライフムーブメントをチェックしてみてください。

年明けからガレージアパートGLBの鉄骨建て方も同じ敷地で開始。是非その様子と鉄骨の素材感を実感してください。色鮮やかなデイトナハウスのロゴ看板が目印のこの場所は、『環状線』と『姫街道』がクロスするあたりです。詳しくはWEBで！ www.balancedesign.jp/daytonahouse

デイトナ不動産 NEWS03

ついに東京にもGLBが誕生！ 続いて沖縄でも計画スタート!!

東京足立区で計画されている６世帯バージョンのGLB。スチールサッシ＆ペアガラスの大開口は、普通のアパートでもめったにお目にかかれない特別バージョン、地上から2Fの豊かな吹き抜けを仰ぎ見るときの満足感は、他の仕様では味わえない醍醐味なのです。

苫小牧で第一号物件が完工した、デイトナハウスオリジナルの鉄骨造ガレージアパートメント『GLB』ですが、ついに東京・足立区に登場することが決まり、本年１月末に着工予定となりました。とっておきのクルマの格納場所に苦慮されている方、バイクのイタズラや盗難を恐れて購入を控えている方、都内には、そのような目に見えない需要が予想以上に蓄積しているものと思われます。単なるクルマ置場を併設したアパートではなく、艶消し黒の鉄骨の素材感やガルバリウム界壁、2Fの豊かな吹き抜けなど、見どころ満載のGLBが登場することはクルマ好き、バイク好きにとっては朗報ではないでしょうか？

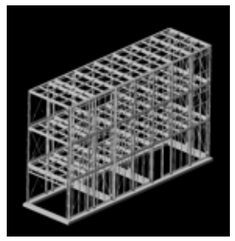
また、北海道バージョンでは、冬の寒さに配慮して、ファサードの開口部を一般的なサッシにしていましたが、今回は本来の鉄骨ガラスウォールを施したバージョンで登場します。下から眺めると吹き抜けの鉄骨天井が透けて見えてくる透過性。アパートなのに住む人の愛着が持続すること間違いなしです。順調に進行して、来年７月の入居開始ですが、事前の賃貸募集も４月からスタート予定です。詳しくは、デイトナハウスのホームページをチェックしてください。同様のプロジェクトが、沖縄県でもスタートしています。これから続々GLBが全国にお目見えすることになりそうですね。

デイトナ不動産 NEWS04

東京大森に計画中の3F建て住宅 都市型ガレージハウスの新しい可能性

全国の加盟店が続々と物件を積み重ねていく中、狭隘な東京の敷地でのデイトナハウスはなかなか難しい面もありましたが、狭隘敷地だからこそ本来は、部材の小さなLGSシステムの利点が発揮されるのです。ということで遂に東京大森西の商店街で3F建てのガレージ住宅に着手しました。いわゆる“うなぎの寝床”と呼ばれる奥行きの長い敷地。そのポテンシャルを最大限引き出すのも、本来は鉄骨造の役目なのです。特にガレージハウスとなれば、これはいわば独壇場です。

今後、都市圏でも鉄骨のガレージハウスの可能性を追求していきたいと考えています。進行状況のレポートをお楽しみに。



お詫びと訂正　前回319号のデイトナ不動産連載の左下の記事において、注文住宅である出雲の物件を“企画住宅”と表現し、その物件のイメージCGを掲載いたしましたが、この物件はあくまで“注文住宅”の誤りです。誠に申し訳ございません。お詫びして訂正させていただきます。

夕闇に浮かぶ大鳥居とモダンな外観とのコントラストが美しい。

デイトナ不動産 NEWS01

安芸の宮島にデイトナハウスの新名所

宮島ブルワリー＆スターバックス完成！

世界遺産、安芸の宮島は厳島神社の海中鳥居を望む参道に、LGSシステムの建物がデビュー。鉄骨ブレースと自然信仰の相性の良さを見に行きませんか？

Text/Atsushi TAMADA　Photo/Yumi SATO（city digit）

デイトナハウスで建築された、宮島ブルワリー＆スターバックスが完成しました。もちろん、この建物はデイトナハウスのLGSシステムが構造骨格になっています。

夕日の沈む静かな海『有之浦』を眺める3Fレストランや、2Fのスターバックスの客席が最大の見せ場になっているこの建物。本来の心の穏やかさが蘇ってくる不思議な感覚はここでしか味わえないものです。まさにパワースポット。露出したLGS鉄骨構造のダブルブレースが絶妙のアクセントになっています。和洋問わず、店舗のコンセプトを引きたてる。これがLGSシステム骨格の真骨頂です。

この建物のオーナーは、クラフトビールブランド『宮島ビール』の有本茂樹氏。宮島の老舗旅館の20代目の立場から紆余曲折を経て、地元ブランドを立ち上げた人です。ブルワリーの名の通り、1Fにはクラフトビール工房と直販ショップも併設されています。また同社が運営する3Fのレストランでは、心行くまでクラフトビールと地元の海の幸を味わえます。テナントとして併設されるスターバックスも、パワースポットならではのユニークな店づくりになっています。湖のような静かな海に浮かび上がる鳥居を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごして、生命エネルギーを充電してください。

賑やかにお店が立ち並ぶ厳島神社の参道の、いちばん鳥居に近いあたりにこの施設はあります。是非そこまで足を運んでくださいね。

ダブルブレース越しに、静かな海（有之浦）を眺めながらのクラフトビールが楽しめる3Fレストランの客席。

1／1Fのクラフトビール直販ショップ。グッとあおって神社に行こう。2／五重塔のお膝元、厳島神社本堂に非常に近い場所なのです。

宮島ブルワリー

地元ではすっかりおなじみのクラフトビールブランド『宮島ビール』のビール造り工房がある1F。海側の参道からの外観。表参道には、直販ショップも併設しています。
広島県廿日市市宮島町459-2
TEL：0829-40-2607　URL：www.miyajima-beer.com

●設計：地球環境プランニング／沖野恒巳　●施工：（株）増岡組

Theme

情報発信スペースを前面に出した 整備工場×ショールームが生む楽しい日常

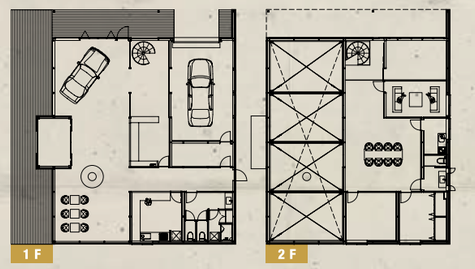
某大手メーカーの宣言以来、エンジン自動車のカウントダウンが始まり、自動車整備工場という存在は、変革期を迎えつつあります。しかし、デイトナハウス的には、むしろそこに楽しい可能性がありそうだと思うのです。

ショールーム空間内部には、適切に木製の壁などをあしらって、さらにインナーグリーンを多く配置する予定です。植物由来の優しい素材と艶消し黒のLGS鉄骨のコントラストは居心地最高です。その空間に、テーマ性のはっきりした車両を展示販売します。傍らにはらせん階段。空間のメリハリを作り出してくれる現代の大黒柱。その壁の向こうには、整備やレストアの完了したクルマの受け渡しスペースがあります。ですので、女性や子供でも馴染みやすい場所になっています。

CGの奥に見える白い建物は既存の整備工場棟です。その付属施設として今回ショールームを充実させて、WEBやSNSでの情報発信を積極的に的に行う計画なのです。カフェやアウトドアショップも併設するので、業態のイメージ自体が変化していきますね。

FLOOR PLAN

ファサード壁面はデイトナハウスの特長である、スチールサッシが惜しげもなく展開されており、バウハウス的な20世紀前半の空間イメージ。しかし、単に奇をてらった“レトロ”主義とは正反対のものです。そのままでは味気ない合理性ばかりを追求した近代に“人間味”や“可愛げ”を見出す。しかもそれに加わるのはクルマ好きの世界観。だからこそライフスタイルが色濃く反映されたこの空間は、なおさら特別の場所になるのです。1Fにはクルマの受け渡し室やカフェの厨房。2Fは事務所機能で構成されています。



2050年にエンジンのみで駆動する自動車の生産を停止すると某大手自動車メーカーが宣言して以来、クルマ好きがザワザワし始めています。空気を吸い、吐くという吸排気の動作がまるで生き物を感じさせ、振動や熱、機械音、排気音など、内燃機関でしか得られないその魅力が消え去るのは淋しいものです。でもそれはまだ30年以上も先のこと。むしろ、オーナーがメカニックと積極的にコミュニケーションをはかり、整備やレストアの楽しさを味わい尽くす。それを促すような場所がこれから登場してくることでしょう。今回は函館で設計中の、整備工場に情報発信型ショールームが併設された実際例をご紹介します。

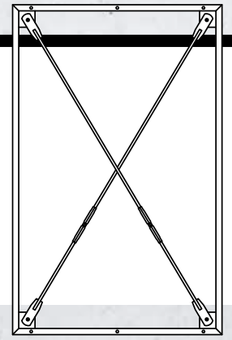
この場所には、しっかりした整備施設を配備しています。道路際に引きがあり、そのスペース内に情報発信機能のショールームをLGSシステムで建築する訳です。毎日クルマの皮をひん剥いて、イジくっている人たちは骨格と表皮で〝モノ〟ができていて、実は骨格こそが大切だとよくわかっています。そんな観点で骨格主義建築のデイトナハウスが、自らの情報を集積して、人が集まるスペースをテーマに設計しています。

1Fは豊かな吹き抜けのショールーム。ここではクルマ以外に、アウトドアグッズや自転車など、ジャンルを問わず、豊かな生活をイメージさせるアイテムを販売するセレクトショップを併設。長い時間滞在できるカフェもありますので、パソコンを片手に、ここを居心地のいいカフェとして利用するのもありです。もちろんピットに足を運んで、愛車が整備される姿をじっくり観察するのも良し。つまりここをベースに、整備工場とクルマ好きの楽しい双方向通信をエンジョイすれば良いのです。

Text/Atsushi TAMADA　CG/Kenta KITAGAWA(ldk), Soma YOKOI

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGS と呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2㎜、幅12.5㎝、厚み5㎝の「C チャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180㎝、縦270㎝の長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



INFORMATION
LDKinc.
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc。建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。
代表:玉田敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL:03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com